





12
4366
16

みゆき

けきん秋どりりりりり

源氏世の三月より元七乃

二月より此迄は行華は大

系野のり筆を天子の給さ

すうごう院のとごうごう

とあれもらせもさあ

よし下一出陣あつさなく

さあひあつれよりりりり

えうとせん例給とるりり



のちのち
りきり
のち

きり
みり
松
りきり
のち

菘とう海

けきふふと須弥山と云ふ源氏
正七は八月五月のすけり御
まらふとあらんされとも
るる久とわつ字とふとま

之をろくれぬ侍のたふ
かりらるはらふれたらと
しるさどまのつまより
さうれてようこのふたこれ
菘とう海はつた菘とうま

いふことありては
のいふことありては
よきことあり

いふことあり

同一事ありては
いふことありては
いふことありては
いふことありては

いふことあり



